

# 厚田学園開校準備委員会

## 第 15 回会議

日 時 令和 2 年 1 月 2 9 日 ( 水 ) 1 8 時 3 0 分より

会 場 厚田保健センター 多目的ホール

[ 会議次第 ]

委員長あいさつ

校歌について

新年度の学校行事等スケジュールについて

その他

# 石狩市立厚田学園校歌

作詞：伊藤 潮  
作曲：高橋たい子

Allegretto

1. あい か ぜ か お る お か の う え つ どう わ れ ら の  
2. (ゆう) ひ か が や く お お か の う え つ どう わ れ ら の

が く え ん ひ ろ ば お お き な は な を さ か せ ん と  
が く え ん ひ ろ ば お よ お せ く な ら な な に さ ゆ め を の せ

こ こ ろ ゆ た か で た く ま し く み ん な な か よ く い き て い  
と ー も に ま な び た た す け あ い み つ よ く あ か る く い き て い

1.  
く は ろ け き や ま な み あ お ぎ み て れ き し か が や く ふ

る ー さ と ー の お し え を む ね に き ょ う も ま た さ あ ホ ッ プ ス テ ッ プ ジ ャ ンプ ゆ う

2.  
く あ つ た ー が く え ん さ か え あ れ さ か え あ ー れ

## 石狩市立厚田学園校歌

作詞 伊藤 潮  
作曲 高橋たい子

一 あい風 薫る 丘の上  
集う われらの 学園広場  
大きな花を 咲かせんと  
心豊かで たくましく  
みんな仲良く 生きていく

はろけき山なみ 仰ぎみて  
歴史輝くふるさとの  
教えを胸に 今日もまた  
さあ ホップ ステップ ジャンプ

二 夕陽 輝く 丘の上  
集う われらの 学園広場  
寄せ来る波に 夢をのせ  
共に学び 助け合い  
強く明るく 生きていく

厚田学園 栄えあれ  
栄えあれ

## 「厚田学園校歌」作曲にあたり

厚田学園校歌作曲についてこの度完成いたしましたので、提出いたします。作曲にあたり下記のことにつきまして考慮させていただきました。

来年開校の当学園の門出にあたり微力ながら寄与させていただきましたことに感謝申し上げます。今後の厚田学園の発展を祈念いたしております。

### 記

- 小学校 1 年生から中学校 3 年生までの学齢の幅のある児童生徒達と先生方が一同に会し歌う歌であること、そして 9 年間という長い期間、この校歌と共に学校生活を送る児童生徒達が歌い続けるということを常に念頭に置き作曲と向き合った。
- 作詞者(伊藤潮先生)との話し合いで「詞」に対する考えを充分にお聞きし 1 番と 2 番の間に、中間部分として教育の場の背景となる自然や歴史を盛り込む。義務教育学校としてスタートする教育課程「ホップ・ステップ・ジャンプ」を入れる。元気でリズムカルな雰囲気にする。(特に終結部の「栄えあれ・栄えあれ」はこだまのように押し込む)
- 厚田の地に何度か足を運び背景が思い浮かぶ動機をスケッチしてみた。
- 文語調の言葉もあるが、リズムやコード進行などをポピュラーな雰囲気にした。
- できるだけ歌詞の抑揚に沿うようにはしたが、それよりもリズムカルで覚えやすいことを重視した。
- 伴奏は、バイエル程度で弾くことができるようにした。
- この歌(楽譜)の指導を通して児童生徒の発声の音域が広がることや、音楽の知識や技能が深まるように願う。

令和二年 一月 日

高橋 たい子

# 石狩市立厚田学園校歌

作詞 : 伊藤 潮  
作曲 : 高橋たい子

Allegretto

あ い か ぜ か お る お  
か ひ か が や く お

か の う え つ ど う わ れ ら の が く え ん ひ ろ ば

お お き な ら は な を さ か せ ん と こ こ ろ ゆ た か で  
よ せ く る な な に ゆ め を の せ と も に た ま な び

た く ま し く み ん な な か よ く い き て い く  
た す け あ い つ よ く あ か る く い き て い

石狩市立厚田学園校歌

*mp* *mf*

は ろ け き や ま な み あ お ぎ み て れ き し か が や

The first system of the score consists of a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line starts with a mezzo-piano (*mp*) dynamic and moves to mezzo-forte (*mf*) for the second half. The piano accompaniment also follows these dynamics, with the right hand playing a melody and the left hand providing harmonic support with chords and single notes.

*cresc.* *f*

く ふ る さ と の お し え を む ね に き ょ う も ま た さ あ

The second system continues the melody. The vocal line features a crescendo (*cresc.*) leading to a forte (*f*) dynamic. The piano accompaniment mirrors this, with a crescendo in the left hand and a forte dynamic in the right hand. The piano part includes some sixteenth-note patterns in the right hand.

*mf* *Coda* *cresc.* *f*

ホ ッ プ ス テ ッ プ ジ ャ ンプ 2. ゆ う く あ つ た が く え ん さ

*Coda*

*D.S.*

The third system introduces a first ending marked with a double bar line and repeat dots. The vocal line has accents (>) over the first three notes. The piano accompaniment also has accents. After the first ending, there is a section marked *D.S.* (Da Capo) and a *Coda* section. Dynamics include mezzo-forte (*mf*), crescendo (*cresc.*), and forte (*f*).

*ff*

か え あ れ さ か え あ れ

The final system features a forte-forte (*ff*) dynamic. The vocal line is simple, with the lyrics 'か え あ れ さ か え あ れ'. The piano accompaniment is more complex, with a strong rhythmic pattern in the right hand and a steady bass line in the left hand. The system concludes with a final chord in the piano part.

令和二年四月開校  
小中一貫校『厚田学園』校歌（歌詞）

# 『作成の背景と願い』

（厚田小中学校卒・厚田小第三八代校長）

伊藤 潮

「厚田学園」校歌

作詞 伊藤



一 あい風 薫る 丘の上  
集う われらの 学園広場  
大きな花を 咲かせんと  
心豊かで たくましく  
みんな仲良く 活きていく

はろけき山をみ 仰ぎみて  
歴史輝くふるさとの  
教えを胸に 今日もまた  
(さあ) ホップ ステップ ジャンプ

ニ夕陽 輝く 丘の上  
集う われらの 学園広場  
寄せ来る彼に 夢をのせ  
共に学び 助け合ひ  
強く明るく 生きていく

厚田学園 栄えあれ  
栄えあれ

# 『厚田学園』校歌（歌詞）作成に当たって

伊藤 潮

私が「厚田学園」の校歌の作詞を依頼された時、最初に考えたことは、①ふるさと石狩・厚田区の子供たちが、\*①歌いやすく、自然と口ずさみたくなるような親しみのある校歌はどうあつたらいいのか。自然と口

校歌は「心の原風景」と言われます。いつでもどこでも誰もが、歌うことによつて、②ふるさととの情景が目に浮かび、イメージされるような歌詞はどんな言葉で表したら良いのか。考え悩みました。そして、③広い厚田区の各地（聚富、望来、古潭、発足、厚田）から集う小一から中三までの子供たちにとつて分かり易く、共感出来る言葉はどんな。その選択は容易ではない……。

そこで、普段の生活の中で使われている言葉、また、野山や海に囲まれた地域の自然を表した言葉を取り入れたら親しみのある校歌になるのではないかと。

④さらに、誰が聞いても、この校歌は、石狩・厚田区の『厚田学園』の校歌だと判るような校歌にしたい。

そして、⑤現代社会での「いじめ・不登校」等の問題に、「校歌」はどう関わつたら良いのか等々。



そんな思い(①、⑤)から様々な視点から構想してみました。

私は令和元年五月末『厚田学園』の校歌歌詞の作成を依頼されました。それは、私が厚田生まれであること、厚田小学校に勤務していたこと、\*②「校歌」について調査研究しているということからでした。

私は生まれも育ちもこの厚田。厚田小、中学校卒業です。

我が家は、代々別狩の浜でニシン漁を営む漁家。昭和二九年のニシン大漁のあの光景は、今でも鮮明に記憶。その後不漁続き。我が家は「ニシン沖刺し網事業」に転換。オホーツク海で枝幸港を拠点としてニシン漁を。ところが、私が高校受験勉強の最中、昭和三四年二月、我が家の船が、ソ連警備艇に拿捕……。

私は、毎年必ず先祖の墓参のために厚田へ。その時、別狩の地の実家があつたわが家の土地状況等を把握。

その後、高台から遙か遠い水平線の海原を眺める。その時、中学生の時、早朝、ニシン網を揚げに父、兄と一緒に船に乗って海に出たこと、水平線に浮かぶ蜃気楼を見たことを思い出す。

そんな一時の望郷の念を抱いて、厚田市街地を見渡すと道の駅、新築中の厚田学園校舎、その横の松山が見えます。そして、厚田小学校校歌の一番の歌詞にある「みよしの山」がくつきりと見えます。思い出します。担任の大塚先生と、クラスみんなで競って頂上まで駆け上ったことを。昨日のような気が……。

石狩市内の勤務校は、昭和四五年から五年間望来小勤務。望来小三年目の昭和四七年七月、石狩河口橋完成。感激感動し、四年生の子供たちを、日曜日バスに乗せ、河口橋を写生に。

その時、冬期間、陸の孤島となる厚田の人達にとっては、百年待ちに待

つた橋。私達が高校受験の時は馬そりという話しをしたことも。

母校厚田小（校長）で平成八年から三年間、その後、花川南小（校長）で二年間。なかでも、厚田小での三年間は、私には忘れられません。校長室で、\*③校歌の三番を発見したこと。驚嘆しました。あの時は。

また、九月の「アキアジ祭り」に「ソーラン踊り」をと、地域から強い要請を受け、夏休みに急きよ練習し、子供たち、地域父母、教職員、総勢百名で\*④「あい風ソーラン踊り」を披露。地域の方々、保護者が積極的に参加し協力してくれました。

当日大変盛り上がった「アキアジ祭り」になりました。

私は厚田村で生まれ育ち、村内の学校に二度勤務しましたので、厚田区に変わっても、ふるさと「厚田」には思い出が沢山あります。

今秋二度ゆつくりと厚田を訪れました。私の姉も戦後「正利冠小」と聚富中に勤めていましたので、今回は、区内をぐるりと回って学校跡等を確認し「道の駅」へ。一階の食堂で「ニシン蕎麦」を注文。

その後は、二階に上がり休憩。静かに沈む雄大な太陽をしばし眺める。夕陽が海面に反射しキラキラと光り輝き眩しい。が、何かしらエネルギーをもらったような気がする……。

輝く夕陽の美しさすばらしさを実感し、家路へと。

私はある時、私の知人、学生、他市町村に住む教え子等に『厚田』についてどんな印象をもっているか聞いてみた。すると、「夕陽が綺麗」という声が圧倒的。次に数名の「著名人」の名前が出てきた。続いて、道の駅、ニシン、朝市、タコ、豆腐、海水欲、桜という声も。

（あい風は他市町村の住民の意識の中にはない）

次に私は、教育委員会から提供された各学校の校歌歌詞と教育委員会からの資料等を分析検討した。

いつの時代でも、地域住民保護者の共通の願いは、風雪厳しくとも、自然豊かなふるさと石狩・厚田区に生まれ育った子供たちが、みんな仲良く助け合い、心と体を鍛え、夢と希望をもち、大きく羽ばたいてほしいということであると認識。

そして、来春開校の小中一貫校の『厚田学園』は、「未来に向かって、ふるさとに誇りをもち、豊かな心とたくましい体で、自ら進んで学び高め合う厚田の子」を目指していること。同時に「厚田モデルのコミニユテイスクール」としてスタートすることも知りました。また、公募により素敵な校章のデザインが出来上がっていることも。

以上のことを踏まえ、私は以下の様に考え、校歌歌詞の作成に取り組みました。

### 【各連の解説】

これまでの校歌に少し変化をもたせて、第一連と第二連の間に中間部を設けました。第一連の出だしは、響きの良いア行の「あい風薫る」とし、第二連の出だしは「夕陽輝く」としました。

一 あい風 薫る 丘の上  
集う われらの学園広場  
大きな花を 咲かせんと  
心豊かで たくましく  
みんな仲良く 活きていく

\*「あい風」が吹く丘の上に（建つ）

私達が通う学園広場（て）

（少しでも）大きな花を咲かせよう

心豊かでたくましく

みんな仲良く進んで活動しよう

「あい風」と「夕陽」、この二つの言葉は、石狩・厚田区を最もイメージしやすい言葉です。

そして、石狩湾の海が見える高台に来春、厚田区内の小中学校が統合され、開校される市内唯一の小中一貫校『厚田学園』、コミニシティスクール『厚田学園』は、現在、各方面から期待されています。ですから、この二つの言葉は『厚田学園』に最も相応しい言葉です。

現在\*⑤「あい風」という言葉は石狩・厚田区内で現在広く使用されています。「あい風」は春から初夏に吹く北風です。

この風が石狩湾に吹く頃、ニシンが大漁に押し寄せたことがあり、「あい風」が吹くと、何か恵みが持たされると、地元の関係者から期待され「あいの風」と親しみを込めて呼ばれてきました。

また「あい風」は「相い風」とも「愛風」とも書かれます。

第一連の「あい風薫る」とは、温かい、優しい風、つまり、地域みんなが見守り、支援するという意。

「われらの学園広場」とは、みんなの、俺たちの私達の学園という意。

\*⑥「大きな花を咲かせんと」とは、大きい小さいは関係ありません。大切なのは、それぞれの花の存在。大きさを認め合い、少しでも大きな花を咲かそうと「みんな仲良く」協力して活動する（活（い）きる）ことです。その活動を通して「豊かな心とたくましさ」が培われるのです。そして、厚田区の各地から集う子供たちの中に強い絆が生まれ、仲間・同窓意識が醸成されるのです。

\*⑦「豊かな心とたくましさ」は「厚田学園の教育目標」の一つです。それをどの様に取り組み、育んでいったらいいのか、今日、各学校現場

で大きな課題となつていきます。そこで「心豊かでたくましく」を意識させるために歌詞に取り入れられました。

学校は学習（活動）を始め、様々な活動が行われる所です。みんなで、グループで、あるいは個々で行われそれが成功、失敗であろうと、互いに協力し助け合い、アクティブに努力する過程に意義があるのです。

また、学校（教育）は夢、理想の追求の場と言われています。学園広場に様々な活動を展開させ、様々な素敵な花を、少しでも大きくなるように育てていこう。そして、咲かせましょう大きな花に。花はみな同じでなくて良いのです。一人一人違つていいのです。

（中間部）

はろけき山なみ 仰ぎみて  
歴史輝くふるさとの  
教えを胸に 今日もまた  
（さあ）ホップ ステップ ジャンプ

\*遙か彼方の山並みを仰ぎみて  
輝かしい歴史のふるさとの  
（先人の）教えを胸に（抱き）  
今日もみんな頑張ろう さあ

多くの学校の校歌には、三つの言葉が使われている場合が多い。それは「山」「川」「海」そして「海」です。これらの言葉は、生まれ育つたふるさとの地域の景観を象徴するからです。それだけでなく、歌詞、詩などでは、「山」は高き理想、不変不動の存在、「川」は時代の流れ、人生、「海」

は大海原と言われるように、雄大、社会、世界と、暗に意味をもたせて使用されています。

校歌は「心の原風景」と言われているように、ふるさととは単に生まれ  
た所ではなく、心を育んでくれた所であり、人間としての生きる基盤を  
つくつてくれた所です。

「豊かな未来は、懐かしい風景の中に」ある（生きていく）のです。

歌人石川啄木は「ふるさととの山にむかいて言うことなしふるさととの山  
は有り難きかな」と詠っています。

発足小学校の校歌には「緑したる山々に」とあり、厚田小学校の校  
歌には「みよしの山の頂に」と、望来小学校の校歌には「雄々しき阿蘇  
の山めぐり」、聚富小学校の校歌には「取り巻く丘よ故郷よ」と詠われ  
ています。

国道二三一号線の聚富の丘を上れば、悠々と流れる石狩川、雄大な  
日本海が見えます。

「遠くを見渡すと、今も昔も変わらない山並み（東方には阿蘇の山、北  
方には増毛連山）」が延々と続いています。

「ニシン漁」で開け、百五十年の歴史を有する石狩・厚田区は、野山  
や川、丘陵、海など、豊かな自然に囲まれた地ですが、その昔、冬期間  
は風雪厳しく交通手段が遮断され、陸の孤島と呼ばれていました。

しかし、そんな厳しい環境、風土の中から実業家、大相撲、宗教家、  
小説家等、\*⑧数多くの著名人を輩出してきました。これほど多くの著  
名人を輩出している所（村）は他にありません。

このことを誇りに思うと同時に、先祖代々厚田の地で幾世代にわた

つて農漁業に従事された祖父母父母等、先人の教えを忘れることなく、九年間自ら進んで学び努力し、確実に「ホッブ」し着実に「ステツブ」し、大きく「ジャンプ」してほしい。

第二連の出だしは「夕陽輝く」としました。

ニ夕陽 輝く 丘の上

集う われらの学園広場  
寄せ来る波に 夢をのせ  
共に学び 助け合い  
強く明るく 生きていく

厚田学園 栄えあれ

栄えあれ

\*夕陽が輝いている丘の上

私達が通う学園広場(で)

寄せ来る波に(大きな)夢を抱いて

共に学び助け合い(励まし合って)

これからも強く明るく生きていく

厚田学園 有り難う

厚田学園 いつまでも

「厚田のあの丘から見た夕陽は絶景」と訪れた人は異口同音に。水平線に沈む夕陽に向かって両手を広げ、少しでも近くにと歩み出る人。何を思い、夕陽をじっと見つめる人、人。

夕陽は何人にも等しく公平に注ぎ輝き、水平線の彼方に沈み行く太陽は、明日また上り輝きます。

夕陽が校舎を真っ赤に染める頃、大きな花を咲かせんと、様々な活動をやり遂げ、下校する子供たちに、夕陽がキラキラと光り輝きます。

「共に学び助け合い」、励まし合い、心と体を鍛え、今日も明日も、共に「強く明るく生きる」子供たちに、丸い茜色の夕陽が輝きます。

夢・希望を抱き、

「寄せ来る波に夢を乗せ、大海原へ飛び立つ」子供たちに、大きな夕陽が輝きます。進む道は違えども、九年間培った絆はいつまでも。

歴史輝くふるさとにあい風が薫り、

夕陽が輝く丘の上の『厚田学園』

僕たち私達の学舎『厚田学園』  
共に学び躍動した『厚田学園』

有り難う、いつまでも 栄えあれ。

※「栄えあれ」と繰り返したのは余韻をのこすため。  
また、こだまするようにとの思い。そして、他の意味（有り難う、頑張れ、いつまでもなど）も含むと考えて。

九年間の小中一貫教育が実践される『厚田学園』で、  
「自ら進んで学び、共に高め合い、豊かな心とたくましい体を育み、  
歴史輝くふるさとを誇りに思い」  
未来に向かって、胸を張って大きく羽ばたいて欲しい。



## 【補説】

### \*① 歌いやすく

戦前の校歌はハ長調で「ヨナ抜き」音階と四分の四拍子が多い。「ヨナ抜き」音階とは七つある音のうち、ファとシを抜いた音階のこと。誰も歌いやすく、声が出やすいというので採用されてきたようです。そして、テンポは四分の四拍子の校歌が多い。しかし、「ヨナ抜き」音階で、四分の四拍子の校歌は単調になり易いので変化が必要。高橋さんが工夫し変化をもたせて歌いやすく作曲してくれました。

### \*② 「校歌」について調査研究

厚田小の校長として赴任した平成八年四月、校長室のロッカ―の書類等を整理していた時「厚田小学校歌の三番の歌詞を発見」。他に「検定願い」等の文書も。以後退職してから「校歌の認可」に関わることを調査研究し、平成二三年三月論文「戦前の小学校校歌等歌曲の『認可制』に関する研究」（道文教大論集第十六号）とまとめた。

### \*③ 校歌の三番を発見

この時の発見、驚きの様子等についての拙文は、厚田150年記念誌『厚田の物語』に「厚田小学校の校歌の謎」と掲載されている。

### \*④ 「あい風ソーラン踊り」

私が厚田小に赴任した平成八年、秋九月の「アキアジ祭り」に「ソーラン踊り」をと、地域の強い要請があり、教職員と協議し要請を快諾。夏休みに急きょ練習し、子供たち、地域父母、教職員、総勢百名で「あい風ソーラン踊り」と名付け発表披露。（当時厚田小には、ポランティアを主とした「あい風少年団」という組織があった。そこで「あい風ソーラン踊り」と名付けた。その後は、地域のイベントや港祭り等に要請あれば土日子供たちのみで参加していた。テレビ局も駆けつけ報道されたことも。

詳細は『あい風ソーラン踊りの誕生』を参照）

\*⑤「あい風」

『大辞林』には春から夏にかけて、日本海沿岸にかけて吹く。北ないし北東の穏やかな風。あい。あゆのかぜ。と記されています。

また、平成十九年七月一日発行の「石狩・学びスタンプ」情報誌『あい風通信』一号のコラム欄で「あい風」について次のように説明されています。

「昭和十年代の厚田では、この風の後には、ニシンの群来がみられ、ソーラン節にも『北風（あい）のあとで群来（よせ）てくる』と。このようにあい風は漁の安全をもたらし、幸せを運ぶ恵みの風だと言われています。」

『世界大百科事典』には「あい風」は、日本海沿岸に広く分布し、海から様々な珍しいものを打ち寄せてくれる好ましい風。北前船は、日本海北部海域からこの風に乗って上方方面に航行したと書かれています。

\*⑥「大きな花を咲かせんと」

「咲かせんと」とは文語体ですが、声、音の響きが口語体の「咲かそうと」より良いのであえて「咲かせんと」としました。

\*⑦「豊かな心とたくましさ」

「豊かな心とたくましさ」の育成は、現在文科省の施策目標の一つになっています。

「豊かな心」とは、①美しい物に率直に感動する心②自分や他人の良さを認める心③違いを認め尊重する心④他人を思いやる（優しい）心⑤命を尊重する心のことを言います。また「たくましさ」とは①体が頑丈でいかにも強そう②意志が強く多少のことではくじけない③意志や勢いが満ちあふれている様子（デジタル大辞泉）。

つまり、強い気持ち、最後までやり抜く、立ち向かう勇氣、挑戦・チャレンジ、アクティブな行動のことです。

\*⑧多くの著名人

厚田150年記念誌『厚田の物語』に、網元・実業家である佐藤松太郎、時代小説家・子母沢寛、創価学会第2代会長戸田城聖、第四三代横綱吉葉山潤之輔……。と。そして、「三・四年の社会科副読本」（平成九年発行）には、佐藤弁蔵と牧田重勝についても記されています。

私は小学生の頃、校舎を寄贈した「佐藤松太郎」の写真を毎日見て「エライ人」と尊敬し

ていた。また、吉葉山が昭和三一年、校舎横に建てられた土俵で「不知火型の土俵入り」を披露したの見て感動した。弟子が村内の中学生に稽古を付けていた。その時、弟子の明歩谷を見た。吉葉山は安瀬出身（「ヤンスケ」と呼んでいた）。同級生に池田君という吉葉山と親戚の子がいた。彼と私は当時卓球部に所属しいつも競っていた。

へ指導される教職員ならびに児童生徒の皆さんへ

「歌」には力があります。ポピュラーやフォークソング、民謡、歌謡曲、童謡でも、どんな歌にも聞くだけでなく、歌うことと遊んだこと、頑張ったことなどを思い出し、望郷の念を抱かせ、明日へと生きるエネルギーを彷彿させます。

この校歌を儀式や学校行事の場だけでなく、学園内外の活動の場で、みんなで大きな声で元気よく歌って欲しい。

難しい言葉も、音が出しにくいところもあるかも知れませんが、歌っていくと少しづつ言葉の意味が分かり、声も出てきます。そうするとこの校歌が好きになり、きつとこの校歌は皆さん方の「愛唱歌」になることでしよう。

校歌の二連にあるように「夢」「希望」をもって生きることがとても大切なことです。それに向かって前向きに諦めずに、アクティブに行動すると必ず実現出来ます。

私は中学二年の時、「先生になりたい」と思い、それからまっ

(完)

## 「校歌歌詞」作成依頼から完成まで

※平成三〇年五月一七日、石狩市郷土研究会にて「校歌認可に

ついて講話

※令和元年三月二十七日、厚田150年記念『厚田の物語』

発行記念交流会参加(望来)

◆令和元年五月二十七日、石狩市教委主幹松永実さんより、三一日

午後、教育長と訪問したい旨の電話あり

◆令和元年五月三十一日、午後二時半過ぎ鎌田教育長と松永主幹が我が家に。来春開校する「厚田学園」の校歌作成を依頼。提出日等を聞き快諾

◆令和元年六月二一日、松永主幹と作曲担当の高橋さんと最初の打ち合わせ

歌詞の構想、今後の日程等を確認。

◆令和元年六月二六日、作曲担当の高橋さんとの打ち合せ(四回)

(道教育大図書館ロビーにて)

校歌歌詞三例提示検討。意見感想交換。

◆令和元年七月二四日、

打ち合わせ(三回。場所前回と同じ)  
試作の校歌を試聴。感想等交流

◆ 令和元年十月二日、打ち合わせ（四回）。松永さん参加  
校歌歌詞の確認。（場所前回と同じ）  
試作の校歌試聴。意見感想交換

\* 十月十七日厚田へ・・・厚田「道の駅」等

\* 十一月十五日厚田へ・・・聚富の学校周辺、望来正利冠、古潭、  
元発足小学校周辺、「道の駅」等

◆ 令和元年十一月七日、『厚田学園』開校準備委員会にて  
「校歌歌詞」を発表

◆ 令和元年十二月一日、『厚田学園』校歌（歌詞）と  
「作成の背景と願い」の執筆完了

◆ 令和元年十二月二日、『厚田学園』校歌（歌詞）と  
「作成の背景と願い」を提出

※※「私の履歴」については別紙をご覧ください。

（令和元年十二月一日）

以上